品野地区・上品野

水野川は品野地区では品野川と呼ばれ、江戸時代にはその上流から上・中・下の三村に分かれていました。信州飯田街道が東西に通っており、中馬稼ぎが盛んに行われていました。上品野は丘陵地から沖積地に降りてくる場所にあたり、交通の要所として中世では山城が造られていました。

菩提寺

寂場山菩提寺は天台宗の寺院で龍泉寺末寺です。寺伝によれば天平年間（729 ～ 749）に行基により開山され、行基作の千手観音を本尊とし、永禄年間（1558 ～ 1570）に養海上人が再興したとされています。また本堂に通じる石段下には「東照上人塔」と刻まれた石碑が所在し、養和元年（1181）に没した東照上人が開基したとされます。山門の左手に現在の墓地、右手に中世墓群と考えられる菩提寺遺跡があります。本堂の右手には毎年 1 月 5 日に初えびすで賑わう恵比須社のお堂が建っています。本堂は昭和 36 年（1961）に再建されたもので、恵比須社は、大正 14 年（1925）に出雲から勧進したものです。境内からは中世の遺物が採集され、規模の大きな寺院であったものと思われます。

（愛知県埋蔵文化財センター提供）

桑下城跡

文明 14 年（1482）に今村城主の松原広長と戦って勝利を収めた永井民部（長江利景）が築いた城とされます。また江戸時代の『張州府志』には、品野の地を攻略した松平清康（徳川家康の祖父）から、品野城を与えられた松平内膳（ 信定）の家老として、永井民部が桑下城を居城としたとあります。国道 363 号線の改良工事にともない城域の北半分の発掘調査が行われました。主郭部分では、西・北・東側を区画する巨大な堀切が確認され、丘陵西側曲輪の南東側に庭園と思われる空間があったことが明らかにされています。15 世紀後葉から 16 世紀後半にかけての瀬戸窯製品や 14 世紀に京都で製作されたと考えられる「菊花双鶴鏡」などが出土しています。

品野城跡

品野城跡は、桑下城跡から水野川を挟んだ南西約 700 m の丘陵上に位置しています。その位置関係から、居住する館城が桑下城、戦の際に詰める城が品野城と考えられています。築城は建保年間（1213 ～ 1219）で、大金左衛門尉重高によるものと伝えられています。その後、戸田氏や織田信秀の家臣坂井時忠、三河の松平信定など、尾張の織田勢と三河の松平・今川勢が争奪を繰り返し、永禄 3 年（1560）の桶狭間の戦いの敗戦により今川勢が衰退して、廃城となったとされます。城跡は堀切を挟んで北と南に分かれ、北は東西に曲輪が連なり、南は横堀と土塁により南からの尾根を遮断しています。南側からの攻撃に対する防御が強く意識されたものと考えられています。

陶器　磁器　創造　街　交流　自然　祭り

信州飯田街道

名古屋から岐阜・長野へ向かう街道の一つで、中馬（ちゅうま）街道とも呼ばれます。中馬は、信州ほか農民の農閑期余業として始められた荷馬輸送のことで、明治 23 年（1890）には、信州飯田街道が馬車等の往来のためルートが付け替えられ、「中馬街道」の名もそのころから用いられるようになりました。山間部を抜ける信州飯田街道の中でも、顕著な急坂の一つとして馬子唄にも謡われたのは白岩町の坂瀬坂でした。坂瀬坂から国境・東濃にかけて本格的な山道に入るため、その手前の上品野などには、馬宿などができ、小規模な宿場町となっていました。

稲荷神社

上品野村の氏神として知られる稲荷神社は、寛永２年（1625）の創建と伝えられます。豊受姫命をはじめ稲荷明神・秋葉権現・大物主神・保食神・山神・氏神などを合祀しています。戦前は、秋祭りの際に各シマから１頭ずつ飾り馬が稲荷神社に奉納されたといいます。

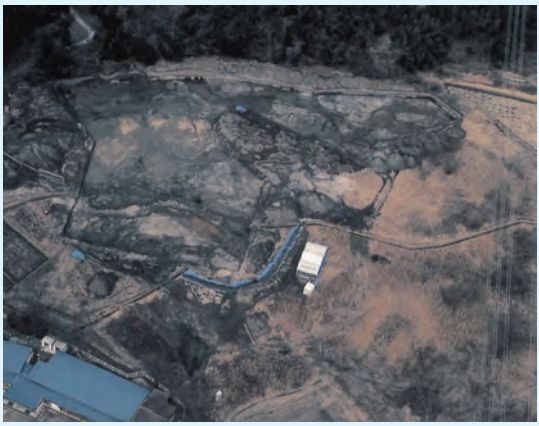
磁器創業之碑

上品野では、江戸時代までは行えなかった陶磁器生産が、明治期に解禁となり、長江松十はじめ 4 名が磁器生産に取り組みました。明治 9 年（1876）に製品化できるようになり、信州飯田街道沿いという地の利も活かして国内外に販路を広げるに至りました。稲荷神社境内にある『磁器創業之碑（上品野村創陶碑）』には、この経緯が記され、明治期から今日に至る上品野の陶磁器生産の礎を示すものとなっています。

稲荷神社窯跡

『磁器創業之碑』に記されるように上品野には、いくつかの窯が築かれました。当時の窯炉は古窯と呼ばれる焼成室 4・5 房の小規模な連房式登窯で、稲荷神社の境内地にも 1 基築かれていました。この稲荷神社窯跡は、神社拝殿前の平場から見て左手の北東向き斜面に幅 6 m 前後、奥行 10 m 前後の規模で築かれ、焼成不良品等を廃棄した物原が社殿側の小谷を埋めるように堆積しています。採集遺物には銅版転写による染付磁器や青磁製品がみられ、明治 20 年代から戦中にかけての生産が確認されます。

上品野蟹川遺跡



▲平安時代墨書灰釉陶器

品野盆地の東端、国道 363 号線に沿って流れる水野川とその支流である蟹川が合流する地点を中心とした遺跡です。品野台小学校建設や国道 363 号線改良工事にともなう発掘調査が行われています。調査では、古代から中世を中心に、縄文時代や古墳時代前期の遺物も出土しています。明確な集落の跡は 9 世紀前半の竪穴式住居跡 1 棟のみで、河川から耕作地へと導水するための中世の柵列が検出されており、周辺で水田耕作が行われていたと考えられます。調査地点からさほど遠くない場所に各時期の集落が存在したと考えられています。

上品野遺跡

▲馬形代

国道 363 号線の南側、沖積地および丘陵末端部に広がります。鉄塔建設・東海環状自動車道建設にともなう発掘調査が行われています。県内でも最古とされる約 3 万年前の後期旧石器時代の石器が出土していることで注目されています。また、古墳時代初頭から江戸時代にかけての多量の土器、陶磁器類や木製品が出土しており、平安時代後半の灰釉陶器の椀・皿類に「東」「吉」「財万」「万□」などと墨書されたものや、奈良時代末から平安時代初頭と思われる祓いに使用された「馬形代」や斎串などの木製品が出土し、律令的な祭祀が行われていたと考えられています。

品野地区・上品野地図

❶菩提寺（P99）
❷桑下城跡（P100）
❸品野城跡（P101）
❹信州飯田街道（P102）
❺稲荷神社（P103）
❻磁器創業之碑（P104）
❼稲荷神社窯跡（P104）
❽上品野蟹川遺跡（P105）
❾上品野遺跡（P105）